

わか草



今年度、かもめ分教室に入学されたみなさん。
写真は入学式での記念撮影



この子らを世の光に

東部療育センター 診療部長 益山 龍雄

東京都立東部療育センター
東京都江東区新砂 3-3-25
発行 東部療育センター
広報委員会

「この子らを世の光に」これは、近江学園を設立した糸賀一雄先生の言葉です。この言葉は、「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」ということに大きな意味があります。援助する側、される側といった関係ではなく、この子らの生き生きとした生命の姿に気づくことにより、私たち自身や世の中の人々が生命のみずみずしさを教えられ、いやされるのです。実際にこれまで施設において多くのことを体験し、教えられてきました。

私は、高校三年の時に、「近江学園」についてかかれた本を読み、「この子らを世の光に」という言葉がなんとなく心からはなれずにいました。その後、医学部に入学し、一年時から、学生ボランティアとして施設訪問をしていました。そのときの活動は、食事介助や紙芝居、おんぶしたり、車椅子を押しして施設内を走り回るなどをしていました。あるとき、非常に重度の方で、一見、無反応のように見え、どのように接したらよいかわからないことがありました。おもいきって、笑顔で近づいて、同じ視線の高さで、話しかけたところ、そのかたは、明らかに和らいだ表情をしてくれました。このとき、「この子に癒された」と感じました。このことは、自分なりの解釈ですが、まさに「この子らを世の光に」という言葉ではないか感じたのです。このことがきっかけのひとつになりこの世界にはいったのだと思っています。

あれから、二十五年以上の月日がたちました。この東部療育センターでも、「両親につけてもらった大切なお名前をよばせていただきながら、笑顔で挨拶するようにしています。お一人お一人の毎日の表情に癒されながら仕事ができるこの仕事に誇りに思っています。今後も、ご利用者様がいきい



総合受付前(5・6月)



総合受付前(4月)

どこが変わっているか、2つの写真でわかりますか？
総合受付前の待合スペースが季節によって変わっています。気をつけて見てみてください。

きとした表情で、最適に過「す」ことができ環境作りをしていきたいと思っています。もし、はじめて施設にきて、どう接してよいかわからないと思っているなら、是非、同じ視線で、笑顔で、五感をつかって話しかけてください。

リハビリ関連 グループ活動の紹介

作業グループ

作業グループは、OTのグループ活動です。毎月第一・三金曜日の十三時四十分～十五時一〇分まで作業療法室2のお部屋でやっています。作業グループは、年間を通して紙すきの作業をするグループと二ヶ月ごとに活動を変えて、いろいろな物を創作するグループがあります。紙すきの班は、八名の固定メンバーで、牛乳パックから“はがき大”の紙を作ります。紙を裂いたり、ミキサーを回したりなどスイッチなども工夫して頑張っています。もう一つの作業グループは、自由参加型で各々の活動に興味のありそうな人たちを誘って、色々なものを介助を工夫しながら作っています。今年度は、陶芸・ろうそく作り・和紙染め・フェルトのクリスマスオーナメント・など・楽しい作品を作ることができました。こんなものをつくってほしいな〜とか、こんなものを創ってほしいな〜ご希望、アイデアなどありましたら是非お話に来てくださいね。



作業グループの様子

青春音楽団

青春音楽団は、みんなの好きな曲を楽器で演奏して楽しむグループです。各病棟から選りすぐりのメンバーで、総勢八名の楽団です。月一回、第四火曜日の十四時三〇分です。毎回、「手のひらを太陽に」の歌に合わせて、手足の他動運動や車椅子ごと優雅にダンス(体操?)をして、心と身体の準備をしてから、演奏をしています。演奏は、毎回好きな楽器を自由にセレクト！太鼓を叩いたり、シンバルを叩いたり、マラカスを鳴らしたり…。自分で楽器を叩いたり振ったり出来なくても、バイブレーターや電動肩たたきなどをスイッチで動かして元気に音を出しています。担当の職員は、演奏に合わせて合奏します。現在までに練習した曲は・・・「カエルの歌」「ドレミの歌」「小さな世界」「ミッキーマウス・マーチ」です。上手にやろうなんて思わず、とにかく“いっしょっぴい”音を鳴らして眠気も吹き飛ばす活動をめざしています。うるさいのがお好きなら・・・聴きにきてね！



青春音楽団の様子

グループ祭り(わっしょい)

月に一度、第二火曜日の午後11時に音楽・ダンス好きが集まって活動しています。テーマ曲をみんなで決めて、曲に合わせて楽器演奏をしたり、車椅子ダンスをしています。今年度のテーマはグループ名にある通り、「祭り(わっしょい)」です。月に一度なので毎回近況報告を含めた挨拶から始まって、「アルゴリズム体操」で準備運動、からだを温まってきたところでスイッチをつかったり、直接触れたりして楽器演奏を楽しんでいます。祭りの雰囲気のできにきてみてくださいね。



グループ祭り(わっしょい)の様子

遊具グループ

月に二度、第一・三月曜日の午後11時にOT室1に集まってオンラインスイングやハンモック、トランポリンやボールプールなどの遊具で遊ぶグループです。音楽にのって、あるいは歌や太鼓に合わせて揺れや振動を楽しんでいます。普段はなかなかじっくり揺れ遊具に関わるのが難しい方も、OTと一対一で遊具に関わることができるアクティブだけどゆったりなグループです。遊園地気分の遊具グループ、通りかかったらのできてみてくださいね。



遊具グループの様子

スナースレングループ

月に一度、第四金曜日の昼下がりにスナースレン室に集まってゆったりとした時間を過ごすグループです。季節ごとにテーマを変えて春の花、梅雨の雨、夏の花火、秋の紅葉などを光・映像・音・心地よい振動で表現した空間でそれらを楽しんでいます。通常の照明が明るすぎて目をつぶってしまうような方でも、うす暗い空間でやわらかな光を、目をほつちりと開いて熱心に見ている様子が見られることもあります。一緒に季節感を楽しんでみませんか？



スナースレングループの様子

福祉サービス 第三者評価について

当センターの二度目となるサービス評価を受けました。この評価は、専門的な評価者が福祉サービスを評価し、その結果をふまえて事業者自らサービスの質の向上を図るものとして平成十五年より東京都が実施しているものです。

平成十九年度の審査は、「NPOサービス評価機構」にお願いしました。評価は事業の種別ごとに行われます。当センターの事業は、入所と通所のそれぞれについて評価を受けています。このたび評価結果が提出されましたのでご報告します。

評価は、事業の定められた評価基準と手順よって行われますが、場面観察やご家族の皆様にお願いたしましたアンケート調査なども評価の一貫として行われています。ここでは、全体の評価講評についてご報告します。入所では、

- ① QOLの基礎を支える医療及び健康管理の徹底
 - ② 利用者に関わる全ての専門家で構成された「摂食嚥下障害ワーキンググループ」の活動
 - ③ 安全に配慮して実施されている外出支援が評価され
さらなる改善が望まれる点として
 - ① 呼称に関しての施設としての討議が必要
 - ② ボランティアの拡大に向けたさらなる工夫
 - ③ 職員のやる気を醸成する人材マネジメントの導入
- が講評としてなされました。通所では
- ① 送迎時の安全確保への徹底
 - ② 食の満足度に向けたさまざまな工夫



高原 武 委員



岩上 英彦 委員

③ 入所と同じく「摂食嚥下ワーキンググループ」の活動が評価され、さらなる改善が望まれる点として、
個別活動のさらなる充実 ②、③は入所と同様の講評がなされました。
今後、この評価をふまえサービスの改善に努めてまいります。なお結果の詳細については、外来、病棟で閲覧できるようにいたします。また、当センターのホームページから「福ナビ」でアクセスすることができます。

サービス向上委員会 第三者委員紹介

センターでは、ご要望や苦情についての窓口を設けて、利用者様やご家族の声をサービスに反映するように努めております。さらに、苦情解決に社会性や客観性を確保するために、第三者委員を選任しています。センターの第三者委員は写真の二名の方です。

高原委員（元墨東看護学校校長）
岩上委員（江東区社会福祉協議会事務局長）です。

カッティングエッジ

超音波検査について

超音波検査とは、極めて高い音波（人間の耳等では聞き取ることができない）を使って主に身体の表面から塗布したゼリーを介して超音波を当てて身体内部の構造・動き・腫れ物・結石・血流・血栓などを観察する検査です。近年では、得られた画像を元に3D（三次元）画像に変えて診断に利用されています。

当療育センターでは心臓超音波を専門外来の医師が、その他腹部超音波を外科・婦人科の外来の医師と泌尿器科外来の医師が実施・診断を行っています。

また、臨床検査技師・放射線技師が対応しての腹部等の超音波検査と骨密度測定検査があります。

ではどのような場合に検査を実施するのですが、腹部超音波検査は糖尿病の栄養過多の定期検査で肝臓の変化などを、抗けいれん剤の長期服用による腎石灰化の様子、胆石・肝炎・感染症等の定期的追跡検査等で検査の要請があります。また、腹痛の訴え・元気が消失した患者様のスクリーニング的なオーダーにも対応いたします。

超音波検査は身体表面からのアプローチです。ので特別な器具を用いませし、エックス線と違い被ばくの心配がありません。しかし、被検者の多大な協力が不可欠です。当院に入所、あるいは外来の患者様は身体的に強度の側わん症を抱えている方が多勢です。また、対面的な意思疎通にも難しい場合があります。十分な超音波検査を実施するにはとても大変で、困難を要します。このような状況下で少しでも異変を見つけるように検査員は努力しています。



超音波検査装置と検査台



ゼリーを介して身体に触れる装置
(70-7)



超音波を利用した骨塩定量装置
(骨密度を測ります)

東部あれこれ

今年の四月から六月にかけて当院で行われた行事について紹介します。

【四月】

四月一日、二日の二日間、新任職員全体のオリエンテーションが行われました。新任の皆さんはやや緊張した面持ちで、熱心に講師の話に聞き入っていました。

また、昨年二月に策定された東部療育センター中・長期計画を踏まえて作成した二〇年度の部門別事業計画のヒアリングが行われ調整のうえ取りまとめられました。

かもめ分教室は、昨年四月に開設され、今年四月からは新たに学校生活を始めた九名を加え、総勢二十六名でスタートしました。

【五月】

二十一日 今年最初となる病棟のバスハイクが実施され、江戸川区の行船公園でリフレッシュしてきました。

また、福祉サービス第三者評価結果の職員説明会が二十二日、二十三日の両日行われ、全てのスケジュールが滞りなく終了しました。

【六月】

二十一日から二十二日の二日間、第四十五回重症心身障害児(者)を守る全国大会が札幌市で開催され、当センターからは院長、事務長、診療部長、看護科長、庶務係主任の五名が出席しました。

卒業式・入学式

この春、かもめ分教室から二名の生徒が巣立ち、四月には、十二名が小、中、高等部に入学しました。「卒業を祝う会」では、小学部二名、中学部一名、高等部二名の生徒に、卒業証書が渡されました。

「卒業」の節目にあたっては、学校生活を振り返りアルバム作りや、卒業制作に取り組み、式の練習を行いました。センターの方達の協力を得て、他の病棟のお友達と共に活動し、一緒に練習できたことで、「自分達が主役」「卒業」という気持ちが出っかかり育ってくるのを感じました。当日は、有馬院長先生をはじめ多くの方達に「お祝いの言葉」を頂き、延べ百人の方々や在校生達に見守られる中で、一人ひとりが「卒業を迎えて」のアピールを立派に行う事ができました。多くの方達にあたたかく祝福された事は心にしつかり刻まれ、今後の自信につながっていくと思われれます。

「入学を祝う会」も盛大に行われました。新しく仲間になった児童生徒達も、毎日元気に学習にはげんでいます。

歓迎会

四月二十一日(月)、三名の新通所者を迎え、歓迎会が行われました。

今年度の歓迎会では、新通所者の方に通所をよく知っていただくため、「通所の紹介をしよう」ということになりました。そこで、昨年度を振り返ったDVDを作成し上映しました。新通所者はもちろんのこと、他の利用者の方も一年を振り返ることができ、大好評でした。

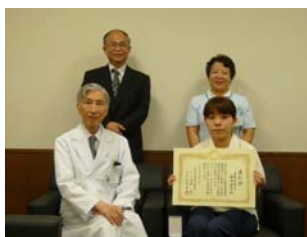
また、鈴のついた紐を全員で持ちながら歌をうたい、絆を深めることもできました。

午後からは、ボランティアの方によるミニコンサートがありました。ギターの弾き語りによる心地よいリズムに、病棟から参加された方と共に楽しい時間を過ごすことができました。

今年度、通所利用者は三十一名になり、賑やかな通所になりました。

永年勤続表彰式

この度、療育部児童指導員の鈴木神奈さんが、社団法人日本重症児福祉協会から平成二〇年度の永年勤続者表彰を受けました。鈴木さんは、東大和療育センターと東部療育センターでの在職が通算十年になり、今回の表彰となったものです。おめでとうございました。今後とも健康に留意され、がんばって頂きたいと思えます。



写真(前列)
表彰者の鈴木 神奈さん(右)
有馬 正高 院長(左)
写真(後列)
山岡 俊枝 看護科長(右)
中村 弘 事務長(左)

編集後記

わか草第七号をお届けします。診療部長の巻頭言にもありますが、「この子らを世の光に」というすばらしい言葉も念頭におきながら、東部療育センターの療育を充実させたいと全職員は努力しています。広報紙である「わか草」の紙面も号を重ねることに当院の活動の様子があがられる内容になってきていると思えますが、皆様のご意見、ご希望もいただいてまた発展させたいと考えます。今年梅雨が早く始まりまして、第7号が発行される頃には明けてカラッとした天気を期待しつつ、今回の編集後記を終えたいと思えます。



卒業式での記念撮影(写真上)
入学式の記念撮影写真は巻頭言にて掲載



歓迎会でのミニコンサート
吉ターの弾き語りの様子